

平成 30 年 8 月 25 日(土)夏休み明け全体学活校長挨拶

おはようございます。こうして皆さんの元気な顔を見ることが出来て大変嬉しいです。ところで私は挨拶でいつも哲学のお話しをするのですが、どうしても本音のところでは分かってもらえないことがあると感じています。それは「学力」とは何か、に関する事です。皆さんは学力をどのようにお考えですか。「答や結果を出す力」だ、と思っていませんか。本音のところでは、もしそう思っているとしたら、それは違います。そう思ってしまうのは受験によって教育がゆがめられているからです。それは結果を出さなければ生き残れない、といった世の中のゆがみを反映しているのです。

では「学力」とは何か。学力とは文字通り学ぶ力、「正解のあり得ない問いに向かい合う力」の事です。これは文系理系に関わりなく言える事です。数学や理科の場合、やり方を決めればもちろん正解はあります。しかし数学や理科ですぐれた業績を残した人たちはみな数の不思議、自然の不思議にうたれ、その不思議に惹かれた人です。文系でも同じです。例えば論説文では作者の意図が問われる。しかしそこで止まってしまうなら大変つまらない。私も論文を書きますが、何が言いたいのか自分でもよく分からないんです。分からないから書く。人間の不思議に導かれているんです。

この学校のスローガンは何ですか？

生徒：「人間を学ぶ」

そうです。「人間とは何か」、この問いに一般的な正解はありません。ですが「人間の理解」というのはとても大切です。何故なら人間は自分の「人間の理解」のとおりママを生きるからです。浅い理解しか持たない人間は浅い人生しか送ることが出来ない。だから「人間を学ぶ」ことは重大なことなのです。

これからも皆さんといっしょに「人間を学」んで行こうと思いますが、今日は時間が無いので、宿題を出しておきたいと思います。人間には感情がありますね。これがあるから人生は豊かになる一方、感情というのはとてもやっかいなものです。でもそもそも「感情」って何でしょう。それを考えることが「人間を学ぶ」ことにつながります。泣く、笑う、怒るのは人間だけですね。笑いにはいろいろな笑いがありますが、今回は喜び、その中でももっとも深い「感動」ということについて考えてみたいと思います。感動するのも人間だけですね。感動するネコはいませんね。いるかもしれない？じゃあ、これも問いになりそうですね。ということで、人間はとうとうきに怒り、泣き、感動するのか、これを宿題にしておきます。終わります。